

獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター イベントレポート

イベント名	<p>草加市共催講座 子どものほめ方・叱り方講座 ～年齢でほめ方・叱り方は変わる？～</p>
日時	2016年10月22日(土)
場所	獨協大学構内
講師	埼玉県立大学 准教授 林恵津子先生
講座の目的	子どもたちが自分の振る舞いを振り返り、状況をよく考えることのできる子どもに育てましょう。
参加者	小学校低学年以下のお子さんを子育て中の保護者の皆さん
<p>当日の様子</p>	<p>2時間にわたって、講義をしていただきました。 参加者の皆さんには、大変熱心に聴き入っていただきました。ありがとうございました。</p> <div data-bbox="526 672 1404 963" data-label="Image"> </div> <p><講座内容のご紹介></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 叱るとは きっぱりと叱らなくてはならないのは、自分または他者を傷つけたり、危害を加えたりした時 ● 甘やかしとは 子供が意のままに振る舞うことに関知しない→子どもの尊重ではない ● 穏やかな環境の中で思考力が育つ。感情抑制が可能になる。恐怖を感じているときは「じっくり考える脳」は活動を停止する。 ● 体罰はなぜいけないのか 体罰は、大人の衝動的な感情爆発過ぎない。子どもには恐怖心だけが残り、思考が停止する。 ● 叱るときのポイント <ul style="list-style-type: none"> ➢ 3歳以下の子ども 親の怒った顔、喜ぶ顔を理解することが大切。愛着関係が十分育っていることが前提 ➢ 就学前の子ども 「〇〇したら、××になる」という因果関係が理解できるか？なぜ「いけない」のか説明する。子どもに状況説明や理由のチャンスを与える。 ➢ 小学校低学年 因果関係が分かるようになるので、知っていることはしつこく言わない。静かに毅然と話す。お説教ではなくて質問形式にする。 行動を描写して叱る。良いことをしたときにも行動を描写してほめる。親が子どもを認めるメッセージは親子の信頼関係を築く。

